

## 平成 27 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	05	10	0401	萬鉄五郎記念美術館企画展示事業
総合計画	分野	人づくり			
	政策	3-5	芸術文化の振興		
	施策	1	芸術文化活動の推進		
目的	萬鉄五郎の画業を顕彰するとともに、優れた美術作品の鑑賞機会を提供する。				
対象	市民等				
意図	先人の業績を認識するとともに、芸術文化に関心や親しみを感じる市民を増加させる。				
事業概要	…上記目的を実現するための事業手法を記載すること				
1 企画展覧会の開催	(1) 萬と同時代及びその後の作家展 (2) 棟方志功 萬鉄五郎に首ったけ展 (3) 多和英子vs放菴・達吉・鉄五郎展 (4) 収蔵品展 (①ドローイングの魅力展、②いわての立体造形展) ＜先人顕彰 藤根與治郎 藤原八弥兄弟展＞				
2 関連事業	(1) 講演会1回、シンポジウム1回、ワークショップ2回、ギャラリートーク2回、ギャラリーコンサート2回、郷土芸能公演1回の開催 (2) 美術に親しむための美術講座の開催 (3回) (3) 情報パンフ「木の間通信」の発行 (年6回) (4) 民間が行う美術普及活動に対する支援 (鉄人会の萬鉄五郎顕彰式典、写生会等)				
市民参画の有無	[ ]				
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	○ 事業協力・協定		
	後援・協賛	補助・助成	委託		
活動指標 (上記「事業概要」に対応)	単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
① 実開館日数	日	計画	322	286	
		実績	244	278	
② 企画展覧会の数	件	計画	5	5	
		実績	5	6	
③ 関連事業の数	件	計画	8	8	
		実績	9	8	
成果指標 (上記「意図」に対応)	単位	区分	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
① 入館者数	人	目標	11,000	10,000	
		実績	14,325	9,299	
② 美術に関心を持つ人の割合	%	目標	75.0	75.0	75.0
		実績	78.6	90.0	
③ 関連事業への参加者	人	目標	330	290	
		実績	412	356	
成果指標の達成度	目標値より高い	○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
○活動指標と成果指標の整合 従来、活動指標の開館日数と企画展覧会の数には市共同企画(先人顕彰)や収蔵品展(常設展)を含めなかったが、成果指標の入館者数にはすべて含めて集計しているため、活動指標にもすべて含めることとした。ただし、事業費及び財源内訳は、予算科目が異なることから先人顕彰を除くほか、萬鉄五郎祭関連事業は別途事業化により除外した。 ○これまでの入館者数目標値12,000人は、過去5年間の実績から過大な数値であり、市民の概ね10%に当たる11,000人を目標とするが、27年度は親子向けの企画展がないことから、1,000人を減じ10,000人とした。		
目的妥当性	公共関与の妥当性 ○ 妥当である 見直し余地がある 妥当でない	県内には博物館法該当の美術館は4館と少なく、鑑賞機会が限定される市民等に対し、身近に低廉な価格で優れた美術鑑賞の機会を提供するものであり、公立美術館として妥当な事業である。
有効性	成果の向上余地 ○ 向上余地がある 向上余地がない	話題性や知名度の高い展覧会を実施することにより、集客力や鑑賞者の満足度がアップする。
効率性	事業費・人件費の削減余地 事業費の削減余地がある 人件費の削減余地がある ○ どちらも削減余地がない	県外同規模館(展示室450㎡、展示事業費1,250万円)の職員数12人(正職員6人、臨時6人)に対し、当館は6人(正職員2人、非常勤・臨時4人)であり、事業費、人件費とも削減の余地はない(当館の展示室は297㎡。県内には同規模美術館はない)。
公平性	受益と負担の適正化余地 受益機会の見直し余地がある 費用負担の見直し余地がある ○ 適正である	入館料は「特別展示に係る特別入館料の基準(平成22年3月決裁)」に基づき、重要度、人気度及び事業費の観点から評価し企画展毎に設定しており適正である。
総合評価 …上記評価結果の総括		
○年間3～4の展覧会に当たり、すべての年代の市民が関心を持てる企画に努めることにより入館者の増加が図られ、美術に親しむ市民等の増加が期待されるが、27年度は、全体として親子で一緒に楽しめる展覧会がなかった。 (幼年、親子を主対象としたもの、主に高齢世代を対象としたもの、主に美術愛好家を対象としたもの、一般大衆向けなど企画のバランス) ○各展覧会の開催に際しては、親子や若年者に関心を持たせる工夫の必要性を改めて実感した。 ○愛好家・専門家向けとして、一昨年、棟方志功が愛蔵していた萬の自画像を寄贈いただいたことをきっかけとした「棟方・萬展」を開催し、期待通りの入館状況となった。 ○一方、他県の公立美術館と共同で開催した「多和展」は、現代造形作品と近代絵画とのコラボレーションの魅力が浸透せず、愛好者の評価は高かったが、入館者は計画を下回った。 ○先人顕彰事業の藤根與治郎・藤原八弥兄弟展は、郷土の風景画や民俗芸能など土着的な題材の絵が中心で誰もが親しめる内容であったこと、身近な画家であったことなどから計画を上回る入館者となった。 ○萬鉄五郎作品5点、萬と親交のあった小林徳三郎作品4件(12点)を購入し、収蔵品の充実が図られた。 ○美術館企画展示室上部の天窓の雨漏りや玄関水道の漏水を改修し、良好な展示環境・鑑賞環境が確保できた。		

平成 27 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

担当部署 部名 まちづくり部 課名 萬鉄五郎記念美術 担当係長 平澤 広 内線 42-4402

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	05	10	0401	萬鉄五郎記念美術館企画展示事業

(単位：千円)

単位：千円				
	26年度 決算額(A)	27年度 決算額(B)	28年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費	15,307	18,642		3,335
財源内訳	国・県	6,160		△ 6,160
	地方債	3,700	4,900	1,200
	その他	4,353	10,815	6,462
	一般財源	1,094	2,927	1,833

事業期間	○ 単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---------	------	-----------------

部重点施策における目標  
芸術文化の振興に努めます。

事業開始の背景・経緯  
住民の強い意欲と資金提供により、昭和59年5月に美術館がオープンし、以後、萬鉄五郎の画業を顕彰する展覧会をはじめ、岩手ゆかりの美術家や、日本の美術史上重要な役割を果たしてきた美術家の展覧会を実施してきた。

事業概要  
1 企画展覧会の開催  
(1) 萬と同時代及びその後の作家展  
(2) 棟方志功 萬鉄五郎に首ったけ展  
(3) 多和英子vs放菴・達吉・鉄五郎展  
(4) 収藏品展 (①ドローイングの魅力展、②いわての立体造形展)  
<先人顕彰 藤根與治郎 藤原八弥兄弟展 >  
2 関連事業  
(1) 講演会1回、シンポジウム1回、ワークショップ2回、ギャラリートーク2回、ギャラリーコンサート2回、郷土芸能公演1回の開催  
(2) 美術に親しむための美術講座の開催 (3回)  
(3) 情報パンフ「木の間通信」の発行 (年6回)  
(4) 民間が行う美術普及活動に対する支援 (鉄人会の萬鉄五郎顕彰式典、写生会等)

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等  
1 平成27年度は、棟方志功が萬の崇敬者であったことから、棟方と萬の展覧会を中心展覧会として企画した。  
2 萬作品の収蔵が少なく、収藏品拡充の要望が寄せられていたが、平成26年12月に市民から頂いた寄付金を財源とし、萬作品5点、小林徳三郎作品4件 (12点) を購入し収藏品が増加・充実した。  
3 企画展示室に雨漏りの原因となっている天窓を改修したことにより、入館者から指摘があった美術品の展示・鑑賞環境が改善した。

【事業手法の詳細】…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。  
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

1 展覧会 7,550 千円 (財源：使用料2,210、図録販売375、過疎債4,900、一財65)

展覧会名	開催期間	事業費	入館料見込	図録販売
萬と同時代及びその後の作家展	4月11日～6月28日	36	291	2
棟方志功 萬に首ったけ展	7月4日～8月30日	5,036	1,149	353
多和vs放菴・達吉・鉄五郎展	9月5日～10月25日	1,671	287	20
収藏品展	2月13日～3月31日	807	214	

【参考】10.5.1.先人顕彰事業分

先人顕彰：藤原八弥展	10月31日～1月31日	1,057	269
------------	--------------	-------	-----

- 2 関連事業
- 講演会 (萬・棟方展)、シンポジウム (多和展)
  - ギャラリーコンサート (棟方・萬展、多和展)、郷土芸能公演 (藤根・藤原展)
  - 美術講座 (3回)
  - 萬鉄五郎顕彰式典、写生会等の支援
  - ワークショップの開催 (棟方・萬展、多和展)
  - 出展作家等によるアーティストトークの開催 (多和展)
- 3 その他 11,092 千円
- 美術館施設改修 2,862
  - 絵画購入 8,230

展覧会別経費内訳

区分	金額	説明	萬・同時代	棟方・萬	多和英子	収蔵企画展	その他
報償費	156	講演会、ワークショップ、執筆謝礼		156			
旅費	284	作品借用、返却旅費		251	33		
需用費	2,096	展示用品	31	222	112	101	
		ポスターチラシ等		425		366	
		図録印刷		799			
		記録写真					
役務費	439	食糧費	5	25	10		
		ポスター等配送		136	16	43	
委託料	5,367	借用作品動産保険		244			
		作品借用・展示・撤収等		2,108		297	
		写真撮影委託料		100			
使用料賃借料	570	天窓、水道補修					2,862
		作品借上料		509			
備品購入費	8,230	著作権料		61			
		萬作品油彩画「風景・郷土沢町」ほか					8,230
負担金	1,500	共同企画展実行委員会			1,500		
計	18,642		36	5,036	1,671	807	11,092